

光市立光総合病院及び大和総合病院の 公立病院経営強化プランについて

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

① 地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能

記載のポイント

- **地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能**について記載する。
- 地域医療構想における推計年である**令和7年（2025年）及びプラン最終年度における機能ごとの病床数や、病床機能の見直しを行う場合はその概要**を記載する。

記載内容（P14～17）

- **光総合病院**は、周南医療圏における東部の一般急性期病院としての機能を担うことが求められており、急性期医療機能の向上等を目的として、令和元年に新築移転している。新病院では、がん治療充実のため、外来化学療法室の整備、緩和ケア病棟を開設するとともに、本圏域は回復期の病床が極端に少ないことから、従来どおり急性期及び回復期病床を確保する。
- **大和総合病院**は、高齢の入院患者が今後も当面の間、増加することが見込まれており、引き続き、療養病床を中心とした慢性期医療に取り組む。また、院内の地域連携センターの機能について、さらなる充実を図ることにより、地域の医療機関や介護施設等との連携を強化するとともに、地域住民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らし続けられるよう、回復期・慢性期から在宅医療へと円滑に移行できる体制を整える。

※急性期を経過した入院患者の割合が多く、今後もその傾向が継続することを踏まえ、急性期から回復期へ40床移行

病床機能	光総合病院		大和総合病院	
	令和5年度	令和7年度 令和9年度	令和5年度	令和7年度 令和9年度
急性期	143	143	40	—
回復期	67	67	44	84
慢性期	—	—	159	159
合計	210	210	243	243

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

② 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

記載のポイント

- 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能について記載する。
- その際、病院の規模や特性等に応じた役割・機能の明確化・最適化について記載する。

記載内容 (P17~18)

- 光総合病院は、平成26年に急性期後の受入れを支える病棟として、地域包括ケア病棟を開設し、地域包括ケアシステムにおいて、かかりつけ医等の地域の医療機関の後方支援病院としての役割を担うとともに、在宅医療・介護での生活に支障が生じた場合に診療・処置が行えるよう、地域の医療機関との連携強化に努めていく。
- 大和総合病院は、地域連携センターの充実・強化により、地域の医療機関、保健福祉施設及び行政機関との連携・協力のもと、円滑な地域医療連携を目指すことや、回復期リハビリテーション病棟により、急性期を経過した患者の在宅復帰支援等を行うとともに、継続して療養やリハビリテーションが必要な患者に対し、訪問看護や訪問リハビリサービスを提供し、生活の質の確保を重視した在宅医療が継続できるよう支援に取り組む。

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

③ 機能分化・連携強化の取組

記載のポイント

- 地域全体で持続可能な地域医療提供体制を確保するために必要な**機能分化・連携強化の取組の概要と講じる具体的な措置**について記載する。
- さらに、病床利用率が特に低水準（令和元年度まで過去3年間連続して70%未満）である場合、地域の実情を踏まえつつ十分な検討を行い、必要な取組について記載する。

記載内容（P18）

- 光総合病院は、急性期医療を担う病院として、また紹介受診重点医療機関としての役割を担うことから、紹介患者の受入や、急性期を脱した患者の逆紹介を積極的に行うとともに、急性増悪した患者の受入れを行う地域包括ケア病棟の運用も行っており、病診連携を実践することで対応への強化を図る。
- なお、病床稼働率の改善に向けて、地域の診療所等との連携をさらに深め、限りある医療資源を急性期医療・入院診療に重点的に投入することで、対応できる入院患者の増加を図るとともに、今後の課題である新興感染症等の感染拡大時に対応可能な病床確保に努める。
- 大和総合病院は、慢性期医療を担う病院として、急性期退院患者や慢性期患者の在宅復帰に向けたリハビリ等を地域で円滑に受け入れることができるよう、回復期リハビリテーション病棟などの充実を図る。さらに、サブアキュート・ポストアキュートへの対応や在宅医療の提供など、地域包括ケアシステムにおいて果たすべき役割を着実に推進していく。

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

④ 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

参考

記載のポイント

○ 病院の果たすべき役割に沿った、質の高い医療機能を十分に発揮するとともに、地域において他の病院等との連携を強化しているかを検証する観点から、以下の例示などを踏まえ、適切な数値目標を設定する。

1) 医療機能に係るもの

地域救急貢献率、手術件数、訪問診療・看護件数、リハビリ件数、地域分娩貢献率など

2) 医療の質に係るもの

患者満足度、在宅復帰率、クリニカルパス使用率など

3) 連携の強化等に係るもの

医師派遣等件数、紹介率・逆紹介率など

4) その他

臨床研修医の受入件数、地域医療研修の受入件数、健康・医療相談件数など

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

参考

④ 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

記載内容 (P18)

光総合病院

	見込	計画			
	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
紹介率 (%)	53.5	56.4	59.2	62.1	65.0
延入院患者数 (人)	46,383	55,237	58,656	58,437	58,414
延外来患者数 (人)	68,268	81,625	80,683	80,071	79,766
手術件数 (件)	722	755	789	822	855

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

参考

④ 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

記載内容 (P19)

大和総合病院

		見込	計画			
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
延入院 患者数	一般病床	12,444	13,130	13,020	13,240	13,350
	療養病床	73,932	73,909	73,458	73,506	73,655
延外来患者数 (人)		23,085	22,458	23,014	23,571	23,582
訪問看護延人数 (人)		1,215	1,798	1,842	1,886	1,930
訪問リハビリ延人数 (人)		1,337	1,104	1,148	1,192	1,236
リハビリ実績指数 ※回復期リハビリ病棟		40.4	40.8	41.2	41.6	42.0